史跡古津八幡山遺跡保存活用計画推進委員会(第3回)・
古津八幡山遺跡確認調査指導部会(第5回)
議事内容要点

日　時　平成 31 年３月 13 日（水）
　　午後１時 30 分～
会　場　新潟市新津美術館レクチャールーム

出席委員
小林達雄委員・石川日出志委員・内山英紀委員・川上真紀子委員・齋藤純子委員・
朱雁委員・高橋郁子委員・中山利之委員・橋本博文委員・石黒立人委員
欠席委員
菊地芳朗委員・渡邊正紀委員
指導・オブザーバー
新潟県教育庁文化行政課　加藤学氏

当日次第
１　開会

２　挨拶

３　報告・議題

（１）保存管理関係
ａ．平成 30 年度古津八幡山遺跡確認調査結果の報告
〇遺構の年代と集落の構成について
●委員意見：去年の調査成果のまとめで、「住居の分散化」という言葉が出てきたが、今回確認された建物の年代観と同時期の建物というのは内環濠に囲まれた範囲にあるのか？
◆事 務 局 ：同時期の竪穴住居は南地区の条構２のさらに南東にある。前方後方形周溝墓の外側に巡るような濠の時期が今回確認した竪穴住居の出土遺物とほぼ同時期と思われる。
●委員意見：前方後方形周溝墓の時期に該当する居住域として今回調査したところが対応関係にあると想定していると思うが、居住域は分散化というより移動したという見方で良いか？
◆事 務 局 ：今回の調査で北東側に新しい時期の建物が見つかったことから分散化と考えている。中心部分は古い段階で新しい段階は外側にいくというイメージで捉えている。

〇柱痕について
●委員意見：ピットは柱痕(柱の痕跡)があるものとないものが明確に区別されるのか。柱痕がないものはどのように解釈するのか。
◆事 務 局 ：今回はほとんどが柱痕のあるピットだったが、掘り込みは深くても柱痕がないものや掘り込みが浅いものもある。
●委員意見：掘立柱建物の独立棟持柱のピットは柱痕が斜めになっているが、どちら側に傾いているか。
◆事 務 局 ：断面をみると建物側には傾かない。

〇炭化米について

●委員意見：17 次調査で炭化米が出ているが、どういう遺構からどれくらいの量が出ているのか。

◆事 務 局 ：古墳の下の竪穴住居から写真の３倍程出ている。

●委員意見：上越の釜蓋遺跡の大型建物から多くの炭化米が出て、住居ではなく倉庫だと発表があったので、竪穴建物が住居なのか倉庫なのかという意図で確認した。

ｂ．平成 31 年度の確認調査計画について

〇今後の調査計画について

●委員意見：平成 29・30 年度の２か年調査して重要な成果が上がった北東地区だが、もう１か年ここを調査するという事になると、当初の全体計画４か年を１か年延長と考えるのか、それとも全体計画４か年のなかでやりくりするということなのか、その辺については未確定なのか。

◆事 務 局 ：調査計画は市の財政面も関わってくる。実際、当初の４か年計画の時点より予算の規模が減り、調査の規模も縮小せざるを得ない状況である。今のところ各年度の調査予算を減らして、その分、調査年度を延期して調査を行う予定である。

●委員意見：この２か年の調査は非常にポイントが絞れて良い成果が上がっているので今後に期待する。そのためには単年度の調査規模、経費が多少圧縮してでもこの遺跡の特徴、重要性がきちんとおさえられるような計画を進めていただければありがたい。

●委員意見：調査期間は一期４年くらいでひと段落し、そのあともう一期４年くらいを考える必要がある。とても大事な地域なので今後の道をつけておくべきである。

〇トレンチ調査、環濠の調査について

●委員意見：保存のための調査ということだが、ギリギリの狭い範囲で調査するより、可能な限り範囲を確保してやったほうが良い。内容によっては追加指定を考えなくてはいけないような場所なので、大胆にメスを入れるべき。

　また、断面で柱が確認されているが、場所によっては傾く場合もある。三内丸山遺跡の６本柱の大きな建物は、内側に２°傾いていると進めてきているが、少し疑問がある。傾きを正確に把握することは難しい場合がある。

◆事 務 局 ：掘立柱建物のほかに環濠の有無も重大な課題の一つと考えるが、どの部分をトレンチ調査すると適切か。

●委員意見：北東地区の平坦面を東西に横断しつつ、東側は少し傾斜が始まっているところ、西側は傾斜のところまでトレンチを入れる。場所的にはまずここを押さえて遺構の有無を考えるのが適切と考える。

●委員意見：東西トレンチはもう少し斜面まで伸ばしたほうが良い。柵をつくる、濠を巡らせるという観点から、どちらもありという可能性を頭の中に入れておいた方が良い。このトレンチの位置だと、遺構があるのにトレンチにかからないことも予想される。トレンチの大きさも広めにとるなど臨機応変にやってみたらどうか。

●委員意見：新しい段階の遺構が現れてくる可能性も考慮するのであれば濠である必要はなく、たとえば柵列でも良い。古墳時代初頭、弥生時代終末の西日本を中心としたエリアを考えれば、居館というものの祖形がどういう形で出てくるか。いずれにしても掘ってみないと分からず、狭い範囲で考えると分からない部分がある。

　何を探すのか、今回は何を明らかにするのか、もしそれが明らかにできないのであれば、また第二期ということも考える必要がある。今後どうするかということを含め、調査成果を確実に整理することが重要である。古津八幡山遺跡がこの地域の遺跡という価値だけでなく、極めて重要な位置にあるため、あらゆる可能性を考慮する必要がある。

（２）平成 30 年度実施事業について

ａ．活用関係

①フォトコンテスト

●委員意見：フォトコンテストはもうやらないということだが、小中学生などは遺跡や土器の写生会はやっていないのか。

◆事 務 局 ：写生会は実施していないが、別のイベントで土器の絵を書いてカレンダーにするということはやっている。

●委員意見：韓国などでは子供たちが書いた遺跡の絵を博物館に飾っている。そういう試みも考えてみてはどうか。

●委員意見：フォトコンテストをやめるというのは、初期の目的を果たしたということだが、予算の関係なのか。

◆事 務 局 ：予算の縮減も理由の一つだが、以前のアンケートで認知度が足りないという事が分かり、認知度を増やすためにフォトコンテストを行った。今まで来たことのない人を呼び込もうという事だったが、３回やってみていわゆる常連の人の応募が多く、新たな人がなかなかいない。目的とする所と実際の成果がうまく合わない状態でもあったため休止とした。

●委員意見：高校の写真部が所属する高文連（全国高等学校文化連盟）と連携してはどうか。

◆事 務 局 ：フジカラーを通して学校の写真部にアピールしてもらったが、あまり効果がなかった。今後は検討する。

●委員意見：入賞作品は今後も何かしらの形で展示してはどうか。

◆事 務 局 ：秋葉区の区役所のロビーなどに展示する方向で考えている。

●委員意見：学生の部を大学生までに広げてはどうか。

◆事 務 局 ：対象を小学生から大学生としたが、今回の応募で学生は高校生の３名のみ。PR が足りなかったと感じている。

●委員意見：秋葉区の区役所だけなく、新潟市全域で展示して欲しい。
フォトコンテストの作品は財産なので他にも活用展開できるのではないか。

③入館者など

●委員意見：体験学習の参加者数が年度や月によって違うがどのような要因があるか。

◆事 務 局 ：今年度は６月に「花ふるフェスタ」という大きなイベントがあり、多くの来館者に繋がった。参加者数の増減は新津美術館の企画展も影響している。今後、新津美術館の来館者数とも比べて検討・評価したい。

（３）平成 31 年度実施事業について

ｂ．活用関係

①小・中学校向け配布資料

●委員意見：中学生でも関心が高い子供はいる。身近な場所にこういう遺跡があるというのは、子供達の教育にとっては非常にありがたいものである。中学１年生の郊外学習の際に子供達の参考になるものがあればありがたい。

●委員意見：小学校の低学年では資料を理解する所まではいかないが、６年生が歴史を学ぶときに、身近な場所の歴史に興味が持てるような指導をしたいと改めて認識した。ただ、配布資料の文言は難しい感じがする。６年生でもわかるような言葉や解説を使えば、使いやすい資料になるのではないか。

◆事 務 局 ：確かに用語が難しく、どこまで直すべきか分からず四苦八苦して作った資料だが、これで完成という訳ではなく改良しながら改訂していきたい。

●委員意見：配布資料の写真・図がもう少し大きくならないか。イラストの人物像が大事ではないか。

◆事 務 局 ：修正したい。

③イベント、企画展・関連講演会など

●委員意見：弥生の水田再現に参加した。非常に重労働で大変な作業だとは思うが、参加者も楽しんでいたので来年度も続けて欲しい。

◆事 務 局 ：古津八幡山遺跡は弥生時代の遺跡でもあり、米作りや脱穀などをしていた時代なので、重要なイベントの一つである。米だけではなくアワ・キビ・タカキビ・エゴマを無農薬で栽培している。手作業で大変だということを子供たちに体験してもらうことが重要だと考える。今後も続けていきたい。

イベント数の減少についてだが、来年度以降は保存・活用以外の緊急発掘調査が多くなるため、そちらに人員が割かれることから活用事業の方は規模を縮小した。

４　その他

５　閉会